

# 佳作

鳩

ひろみ

足の遅い台風が過ぎ去った朝

一羽の鳩が

水溜りで水浴びをしていた

鳩が動きたびに

不定形の水溜りをはみだす波紋

それは街の端まで広がり

人々の風いだ頬を撫でていた

街には

あらゆる残骸が散らばっていて

それを片付ける老人は

いつかの光景を思い出していた

そんな街から

ぼつりと

孤島のように浮かぶ水溜り

そこに街の音は届かず

無言のままの鳩が

羽を広げる素振りをした

汚い水溜りに

それでも気持ち良さそうに浸かる

鳩よ、

お前の

平和には似ても似つかぬ

重く垂れ込んだ、羽の色

そこからお前の上げる

水しぶきのまぶしさ

水は淀んではいるが

それでも青空を映している

そこには

お前よりも遙か上空に行く

爆音が泳いでいたために

お前はしばらく飛び立てず

水の上でただ、じっとしていた